

「水引中学校のみなと六尺棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立水引中学校

2 学年・人数

中学2・3年生（計34人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年6月～9月 ふるさと・コミュニケーション科の時間
(本校グラウンド, 本校体育館)

(2) 発表の日時・場所

令和2年9月20日（日）水引小・中合同運動会（本校グラウンド）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

みなと六尺棒踊り（みなとろくしゃくぼうおどり）

(2) 由来

港町に伝わる郷土芸能である。鎌倉時代や戦国時代に始まったといわれる。各地で戦乱が相次ぎ、農地荒廃、賦役頻繁、自衛のための武器所有も許されずという有様で農民は、棒で護身するしかなかった。港地区では昭和27年に青年団により踊られたのを最後に長年途絶えていたが、70歳代の方々が中心となり50年ぶりに復活した。現在、保存会の方々が中心となって継承し、毎年6月に新田神社に踊りを奉納している。

(3) 構成等

6尺棒を使った「棒踊り」、8人が一組になり、歌者の「おーせーへーろー・・・」という歌に合わせ、踊り手が「さーさーさ」というかけ声を出しながら、棒を体の上・下部で合わせてたたいたり、棒で地面をたたいたりしながら踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

「みなと六尺棒踊り」保存会の方々と、年度当初に練習計画及び発表の場、踊りに必要な道具等について打合せを行った。練習には、毎回、歌者の方を含め5・6人の保存会の方々に指導してもらった。保存会の方々には、学校応援団に登録していただき、今後も学校支援をお願いしていただけるようにしている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

第1回目の練習時に、保存会の方から「棒踊」の歴史や由来、保存会の活動等について生徒に説明してもらい、生徒の興味や関心を高めるようにした。また、運動会を披露の場とし、文化財を伝承する意図を内外に示した。生徒たちは意欲的に練習に取り組んだ。今年度はコロナ禍で運動会のみでの披露であったが、愛郷心を高めるよい機会となっている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



（実演を交えた保存会の方々の指導）



（実演を交えた保存会の方々の指導）



（運動会に向けた練習の様子）



（小・中合同運動会での踊りの披露）

8 参加生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

（生徒の感想）

- ・ 本番では今まで教えてもらったことを思い出しながらがんばった。緊張してミスもあったが声で補った。これまでの練習は暑かったけれど、とても楽しめた。
- ・ 最初は棒の振り方が分からなかったけど、だんだん体に染み付いてきた。地域の伝統を守れてうれしい。
- ・ 友達と元気よく踊ることができたので、保存会の皆さんに感謝したい。
- ・ 練習はきつかったけれど、運動会ではうまく踊れた。これからも何事にも積極的に参加するようにしたい。

（保存会の方の感想）

- ・ 生徒たちは、覚えが早い。運動会以外のイベントにも参加してもらいたい。
- ・ 学校が伝承活動に取り組んでもらい非常にありがたかった。保存会としても今回の活動を機会に、踊りに関心がある人は誰でも踊りに参加できるような体制を作っていきたい。

（教員の感想）

- ・ 郷土に伝わる伝統芸能を生徒と一緒に体験でき、よい経験になった。生徒達には、各地域の伝統芸能に興味をもってもらい積極的に伝承活動に参加してもらいたい。
- ・ 郷土芸能を学ぶことは、郷土を知り、郷土を愛することにつながる。伝統の伝承は深く、大変意義深いと考えている。